

A 日本アディクション看護学会

Japanese Society for Study in Addiction Nursing

第22回 学術集会



チームで取り組むアディクション ～連携強化に向けて～

大会長 荒木とも子 一般社団法人新狭山かえでクリニック 看護センター長

プログラム

- 理事長講演（対談） **アディクション看護の原点、共依存**
＜理事長＞松下 年子（横浜市立大学 名誉教授）＜対談者＞影下 妙子（NPO 法人さいたまマックススタッフ）
- 大会長講演 **アディクション問題を多方面から考察する**
＜大会長＞荒木 とも子（一般社団法人新狭山かえでクリニック 看護センター長）
- 教育講演 **依存症認知行動療法基礎**
＜演者＞原田 隆之（筑波大学人間系 教授）
- イブニング国際セミナー
（ビュッフェ式食事付き） **アディクションを読み解く**
＜演者＞水田 宗子（国際メディア女性文化研究所 所長）
- 救急医療現場から
ディスカッション **チームで取り組むアディクション～連携強化に向けて～**
＜コーディネーター＞松尾 幸治（埼玉医科大学病院神経精神科 心療内科診療部長）

日程

2024年
12月14日^土・15日^日
13:30 - 20:30 10:00 - 16:00

会場

**埼玉医科大学附属総合医療センター
看護専門学校** 埼玉県川越市大字鴨田 1940-1



参加費

区分	事前（11/1 まで）	通常	WEB 参加
会員	8,000 円	9,000 円	8,000 円
非会員	10,000 円	12,000 円	10,000 円
学生	3,000 円	3,000 円	3,000 円



大会ホームページよりお申し込みください。 https://sc-space.net/jssan_taikai22/

大会ホームページ

学術集会
事務局

一般社団法人新狭山かえでクリニック内 日本アディクション看護学会担当
〒350-1331 埼玉県狭山市新狭山 3-1-1
TEL: 080-3448-6796 FAX: 04-2900-6171 メールアドレス: saitamazimuaraki@yahoo.co.jp

プログラムの詳細

12月14日 講演

14:30 ~ 15:15 理事長講演（対談） 演題「アディクション看護の原点、共依存」
対談者：松下 年子（理事長） 影下 妙子（NPO 法人さいたまマックススタッフ）
司会：大澤 優子（埼玉医科大学保健医療学部准教授）
アディクション看護の原点、共依存について大いに語っていただきます。

15:25 ~ 16:00 大会長講演 演題「アディクション問題を多方面から考察する」
演者：荒木 とも子（新狭山かえでクリニック看護センター長）
座長：田中 瞳（新潟青陵大学准教授）
アディクション問題を抱えた対象者は、専門家の支援の手を必要としていると考えます。あらゆる方面が連携を強化することで、アディクション問題から解放されることへの一助になり得るのではないかと。多方面の国内外の研究者と膝を交えてディスカッションを深めていただくのを願ってお話できればと思います。

17:20 ~ 18:20 教育講演 演題「依存症認知行動療法基礎」
演者：原田 隆之（筑波大学人間系教授）
座長：荒木 とも子（新狭山かえでクリニック看護センター長）
アディクション認知行動療法の第一人者から、基本的な基礎知識を学ぶ機会です。アディクション看護の深化を図る企画です。

19:00 ~ 20:15 イブニング国際セミナー 演題「アディクションを読み解く」
演者：水田 宗子（国際メディア女性文化研究所所長）
座長：和智 綾子（国際メディア女性文化研究所事務局長）
多くの女性文学研究者がアディクション問題を取り上げ論じています。そして、アディクションを生み出す構造を浮き彫りにしています。視野を広げ、柔軟に、多方面から本質に迫る場、ディスカッションできる場になればと思います。
会場の医療従事者と国内外の女性学研究者を WEB で繋ぎ、ディスカッションを深めていきたいと思えます。会場の参加者は、好きな料理を手に取り、海外学会で開催されるような食事付きセミナーをお楽しみいただきます。

12月15日 ディスカッション

13:30 ~ 15:30 演題「チームで取り組むアディクション～連携強化に向けて～」
コーディネーター：松尾幸治（埼玉医科大学病院神経精神科心療内科診療部長）
演者：志賀 隆（国際医療福祉大学成田病院救急科部長）
幸保 かおり（国際医療福祉大学成田病院救急科診療看護師）
牧野 淳（墨東病院集中治療科部長）
加藤 建吾（墨東病院集中治療科診療看護師）
松岡 孝裕（埼玉医科大学病院神経精神科心療内科教授）

アディクション問題を抱えている対象者の救急医療への受診行動の概要と、連携の実際を救急医、救急科に在籍する診療看護師、精神科救急を専門とする精神科医それぞれの立場から話題を提供していただきます。連携強化した医療者の初療対応が、社会から孤立しがちな対象者の受診行動の変容を生む可能を探ります。演者と会場・WEB 参加者で忌憚のないディスカッションを展開したいと思います。

診療看護師（NP）は、超高齢社会を迎えつつある日本の医療・介護に貢献していくことを目指して、日本 NP 協議会が認める NP 教育課程を修了し、協議会が実施する NP 資格認定試験に合格した者で、患者の QOL 向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師です。全国で 2024 年 4 月 1 日現在、872 名の資格保有者がいます。救急医とともに救急医療の担い手になっています。医療現場の連携強化のキーパーソンになり得る存在になっているのではないかと思います。診療看護師（NP）の視点からアディクション問題を抱えている対象者への支援について語っていただきます。

